

第1回クラブおよび指導者のための Be Know Do

こんにちは、これから1年間どうぞよろしくお願ひいたします。

このホームページでは私が提唱している「クラブに是非実践してほしい問い合わせ」の、より詳細な内容をロータリアンのみならず、指導者として備えておかなければならない基本的なリーダー論を述べていきたいと考えています。世間にはリーダー論が数あるとは思いますが、その中心的な論点や基礎的なものはほぼ同じものだと考えています。そこで、シリーズで年間を通して、この基本的なものを載せていくたいと思います。

まず、第1回として地区目標の6に挙げたように、「Be Know Do」の「Be」について、始めて行きたいと思います。

1 リーダーに必要な品格・知識・実践

権限と、信頼のリーダーシップとは、同じものではなく、誰かを尊敬し信頼するから「進んで何かをする」とことと、命令する権限を持っているから、「何かをさせる」とことは、大変異なります。リーダーシップは地位に関わることではありません。それは行動に関わることによって発揮されるものと考えます。

すべての人にあるリーダーシップ

人々を巻き込んで課題を遂行する責任のある立場の人は、誰でもリーダーです。人々を活動へと動機付け、彼らの考え方や判断に影響することで人々へ影響を与える立場の人は、誰でもリーダーです。それは単なる地位から来る機能ではなく、また役割から来る機能でもありません。組織には多くのリーダーが存在します。どんな人であっても、人はリーダーになれるのです。

リーダーシップの3つの要素

リーダーシップには3つの要素がある。

- ・どのような人か(どのようなクラブであるのか)
- ・何を知っているか(持っている強みとは何か)
- ・どのように行うか

の3つであると考えます。単純だが強力な言葉「Be Know Do」へ常に問い合わせ、クラブや人を育成することを考えましょう。

Be どうあるべきか

人々をリードするためには、まずクラブや自分自身のなかに品格が備わっているかを確認しなければなりません。

リーダーシップは、リーダーが「どうあるべきか」(Be)から始まります。これは、リーダーの品格を形成する「価値観」と「属性」のことを言います。これらは内面的な特性であり、1人のときも、他の人々と一緒にいるときも、常に持っているものです。それが「あなたがどのような人であるか」を規定し、確固たる基盤となるのです。これらの価値観と属性は、地位を問わずリーダーすべてにとって同じです。ただし、人が経験を積み、より重い責任を担うにつれて、確実にその理解は深まっていき

ます。周りを見渡してくださると思い当たる節があると思いますが、たとえば、経験のあるものは、無私の奉仕や個人的勇気についてより深い理解を持っているものです。

クラブやリーダーとしての人のあり方は非常に重要であるのです。

人々がリーダーに求めるのは、次のものであると考えます。

- ・正直
- ・実行力
- ・先見性
- ・精神の喚起

リーダーの要件として、「変わらないこと」と「本物であること」があります。

どう行動するかが、いつも理解されないために、リーダーとして失敗する者たちがいます。たまに変わるのは仕方がないが、組織の中で態度と行動が変わるのが最も悪い例です。自分の関わる人々へは、どんな人々に対しても、「変わらないこと」を常に示さなければなりません。これを別の言葉で表せば、「本物である」と言うことです。

品格は、人の内面の力「Be Know Do」の「Be」を表す。品格によって何が正しいかを知り、さらにその知識が行動へと結びつけられる。品格により、状況や帰結を問わず正しいことを行う勇気が与えられる。

品格は行動によって示される。リーダーとしてのおもな責任の1つは、自分の仲間たちに価値観を教えることである。「行動は言葉よりも多くを語る」という古くからの言葉は、真実である。理念、目的、無私の奉仕について語りながら、これらの価値観を生きようとしているリーダーは、「この価値観は、言葉だけのものだ」という間違ったメッセージを送る。

リーダーと呼べるべき人を導く価値観を挙げてみましょう。それは LDRSHIP という頭文字の組み合わせで示されると思います。

献身 義務 尊敬 無私の奉仕 名誉 高潔 個人的勇気

価値観は、リーダーが「こうあるべき」という Be の一面を示すのですが、Be のもう1つの面は「属性」です。リーダーの属性はリーダーの行動へ影響を与え、リーダーの行動は次に組織へ影響を与えます。リーダーの「知的属性」は、意志、自己規律、率先、判断、自己確信、知性、文化的認識を含みます。リーダーは、適切なレベルの身体的強さと態度を保持する。リーダーとして、自己統制、バランス、安定性などの「情緒的属性」は、自分がどう感じるか、また他の人々とどう関わるのかに影響を与えます。

次回第2回は「Know」「Do」について述べたいと思います。